

あまみす

雨水利用を進める市民の会
会長 辰濃 和男
〒131 東京都墨田区東向島1-8-1
☎ 03-3611-0573
FAX 03-3611-0574



「さわやか 笑顔に変わる 雨利用」

「'97 雨水フェア in おきなわ」の開催まで、あとわずかに迫りました。

現地沖縄では多くの方々が、準備に汗を流しておられます。

雨水利用を進める市民の会からの参加人数は、7月8日現在で100名、自治体連絡会の参加者50名で、合計150名と予想を大きく超えました。

* * *

今回の『あまみす』は、3日間にわたるフェアの「聞きどころ 見どころ」を紹介する特集を組みました。ご参考になれば幸いです。

ご夫婦や、お子さま連れで参加される方も多いようですね。

せっかく行くのだから、沖縄のことを前もって子供たちと勉強して、という方にお勧めの一冊。『沖縄のいまガイドブック』(岩波ジュニア新書)はいかがでしょうか。音楽から食べ物や戦争のことまで、沖縄の人が編んだ入門書です。

お天気も気になります。「どしゃぶりを フェアへ 急ぐ 親子傘」というようなことになりませんように祈りましょう。

では、沖縄でお会いできますように。

いざ、
夏
まつさかり
雨水フェアの
沖縄へ！



8月8日(金) 第1日目 (ずっと内容のあるプログラム+雨の音楽祭など)



10:00 基調講演 辰濃 和男 氏(エッセイスト・市民の会会長)

かつて、知床・天神崎などで、自然を開発から守る全国的なナショナル・トラストの運動が起り、実を結びました。辰濃さんの天声人語は、そうした運動の多くに大きく貢献してきました。「雨水を捨てるな」のキャンペーンもしかり。自然と共に生きる暮らしを訴え続けている先達の、心に刻みたい講演です。



1:30 シンポジウム 司会:玉城 朋彦 氏(琉球放送)

－先人の知恵を現在へ、現在の英知を未来へ－

沖縄で雨水利用に活躍している皆さんと、村瀬誠さんが参加します。

宇井純さんは、広く環境問題に取り組み、現在沖縄大学内でも雨水利用を実践しておられます。大城盛俊さんは、県の雨水利用のマニュアル作り、融資制度作りに活躍されています。宇栄原謙さんは、雨水を利用した建物の設計を通じて雨水利用を実践しておられます。

雨水利用の知恵、英知を未来に伝える貴重なお話が聞けるものと思います。



4:00 自治体連絡会と雨の音楽祭

☆自治体連絡会 沖縄の県、市町村を始めとして、神戸市など多くの自治体が出席し、雨水利用の政策についての情報交換等を行います。市民参加もOKです。

☆雨の音楽祭 同じ時間帯に「雨の音楽祭」が催されます。内容については、現在、市民の会と現地沖縄の人とで相談中です。雨をキーワードにして、音楽・文化・心の交流をはかり、皆で楽しもうという企画です。

9日の夜にも屋外で音楽祭の続きが行われる予定です。熱気あふれる沖縄で、音楽と踊りを満喫しましょう。

アツヤツ、買ってください

「雨水フェア in おきなわ」の素敵なTシャツ、まだ200枚ほど残っています。1枚、1500円です。買ってください！

バネル展示

「雨乞い」など、全部で12種のバネル展示を準備しています。

「雨暦」サンプル発表

去年、あっと言う間に売れてしまった雨水カレンダー。今年もプロジェクトチームを組んで準備を進めてきました。サンプルを「雨水フェア in おきなわ」会場で発表し、注文を受け付けます。ご期待ください。

徳永暢男さん、水環境賞を受賞

環境庁による表彰です。今年の個人受賞者19名の中に選ばれました。雨水での受賞は日本で初めて。徳永さんは「皆さんのお代表としていただいて来ました」と言っています。

8月9日(土) 第2日目 (バラエティに富んだ楽しい企画がいっぱいです)

10:00 ポスターセッション「わたしの雨水利用」

松本正毅さん 沖縄に昔からある、水循環に根ざした暮らし・文化を再考し、街づくり・みちづくりに活かすアイデアと技術の集大成として、雨水利用アーケードを提案します。自然資源のエネルギー循環を楽しく体験できる場になればいいのですが…?

安藤勝治さん 取水継ぎ手を紹介します。魔法のバケツ「雨水くん」と名前をつけました。

市川 龍さん 沖縄市で1年間に使用される水道水量の4/1は米軍の嘉手納基地で消費されます。基地の雨水利用を提案します。

ポスターセッション「わたしの雨水利用」には、22件の応募がありました。皆さんの雨水利用の実践・提案をお聞きください。沖縄からは沖縄大学の雨水利用や個人住宅の雨水利用が紹介されます。

1:00 コンテスト表彰 実践部門には15件、アイデア部門には30件、川柳部門には756件の応募がありました。オリオンビールを飲むのは誰だ!?

市民フォーラム「雨水への思いと実践を未来へつなげよう」

雨水利用への思いが沖縄をますます熱くすること間違いなしのフォーラムです。司会は沖縄テレビの寺田麗子さん。那覇市内を流れる久茂地川をよみがえらせる市民運動にも参加されています。コメントーターには、沖縄県雨水利用進める市民の会会長の吉田朝啓さん。元那覇保健所の所長さんです。

パネラーには、飲み水以外はすべて雨水で賄っているという、那覇市役所の横山芳春さん、設計事務所の上盛安恭さん、日本盆栽協会の神里興盛さん。それに市民の会から徳永暢男さんも参加します。乞ご期待。

3:00 雨水文化の交流

☆スライドショウでは、日本各地に残る雨乞い行事を中心にして、先人たちがいかに雨を敬い、大切にしてきたかをご紹介します。

雨乞い芸能公演では、沖縄の皆さんから雨乞いの踊りを披露していただきます。今に受け継がれた、珍しい踊りを観ることができるでしょう。

☆玉水トークショウでは、沖縄在住の方々から、水道が整備される以前の雨水利用の話を、実践に基づいてお話いただきます。水が非常に貴重で、水を得ることが大変であった当時の生活、沖縄の雨の文化など、興味深いお話が期待できます。



6:05 宣言文採択

8月10日(日) 第3日目 沖縄雨水利用現地視察(エキスカーション)

「百聞は一見にしかず」と申します。この雨水利用エキスカーションには市民の会から50人以上が参加する予定です。雨水利用だけでなく、沖縄の歴史や自然に出会うまたとないチャンス。4つのコースの主な見学内容は次の通りです。

北部コース：浄水場跡、瀬底島、沖縄海洋博記念公園

南部コース：浄水場跡、首里城、垣花通川、玉泉洞

中部コース：浄水場跡、琉球村、東南植物園、海水浴

粟国島コース：トゥージ石、海水淡水化施設、海水浴

「事前調査に参加して」

谷田 泰

去る5月30日から3日間、市民の会による沖縄雨水利用の事前調査が行われました。3コース、6名程度のグループに分かれて、私は那覇・糸満コースに参加しました。沖縄の崎山さん、中濃さんの案内で、一般住宅や公的施設の雨水利用設備を見学しました。

横山芳春さんのお宅では、地下に23m³の雨水タンクがあって利用しており、前月の上水道の使用量は3m³にすぎなかったとのことでした。また雨水だけでなく雑排水も浄化して、中水として再利用している中濃さんのお宅にも驚きました。

古くからの住宅が残っている真壁集落では、歴史を感じさせる、コンクリート製のタンクをいたるところで目にすることができます。沖縄では昔から、ごく自然に雨水利用が行われていたことを感じました。

今回の雨水フェアに参加される方も、時間があれば、郊外の集落に出かけてみてはいかがでしょうか。



いざ沖縄！「どんなお気持ちで参加しますか？」

◆高橋朝子さん 97年5月、初めて沖縄を知りました。豊かな自然とヤマトンチュウとはちがう感性を持つ人々。そんな昔でない時期、雨水を飲み水とし、限られた水の使い方にも生活の知恵が溢っていました。その沖縄に、もう一度雨水利用を見直してほしい。それは、沖縄を含めた日本、また地球の問題だから。



◆伊藤 佳さん 私は「土」にとても関心があります。サンゴからできていると言われる沖縄の土の感触と香りって、どんなものかなと楽しみにしています。

◆森田セツ子さん 長男、嫁、孫、友人と6人で参加します。雨水の大切さや沖縄のいろいろな問題について、子供たちに実際に体験して、学んでほしいと思っています。

◆山田和伸さん 沖縄の琉球アユは絶滅し、わが故郷、奄美大島から移植したそうです。赤土の流出や海岸線の破壊は奄美も同様です。島の暮らしと自然との共生を、沖縄へ行くに当たって、じっくり考えてみたい。

◆粉山正行さん 初めての沖縄です。復帰から25年を経て沖縄は良くなったのかどうか。現地の方々からお話を聞けたらと思っています。